



富山県

# マルバカイドウを台木としたリンゴの苗木育成技術

## 富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所 果樹研究センター

### 1. 背景とねらい

近年、県外リンゴ主産地においてDMI剤に耐性の有する黒星病菌が確認され県外業者から苗木を購入することが困難となったため、県内各産地では、生産性の低い老齢樹の改植や新規植栽に必要な苗木を自家生産する技術が求められています。

そこで、本県で主に栽培されている「ふじ」/マルバカイドウの苗木養成方法について検討し、苗木の自家生産の参考とします。

### 2. 成果の内容

- ・マルバカイドウを台木とした「ふじ」の苗木生産において、1年目にマルバカイドウ台木（基部径0.5~2.0cm）を挿し木し、2年目に穂品種「ふじ」を接ぎ木することで、新梢長100cm以上の生育の良好な2年養成苗が生産できます（表）。
- ・マルバカイドウを台木とした「ふじ」の苗木生産において、マルバカイドウ台木（基部径0.7cm~2.0cm）に穂品種「ふじ」を接ぎ木し、これを挿し木することで、新梢長100cm以上の生育の良好な苗が1年で生産できます（表、図1）。
- ・1年養成の肥培管理は、尿素をN成分1kg/aで水に溶かしかん注しますが、追肥1回（6月）と3回（6~8月、月1回）で穂品種「ふじ」の新梢生育は同程度です。
- ・挿し床には、通気性、排水性に優れた肥沃度の高い土壌（作付け中の水田土壌又は畑地に由来する黒ボク土壌など）を利用しましょう。また、リンゴ栽培歴がある土壌は避けましょう。

表 マルバカイドウ台木の挿し木時における基部径が穂品種「ふじ」の生育に及ぼす影響

挿し木時の 台木基部径 (cm)	2年養成		1年養成（接ぎ木挿し法）		
	新梢長(cm)	良苗率 <sup>2</sup> (%)	新梢長(cm)	活着率 (%)	良苗率 (%)
0.5~0.7cm	170.6 a <sup>y</sup>	100	96.0 b	100	60
0.7~1.0cm	176.8 a	100	151.5 ab	100	100
1.0~2.0cm	187.3 a	100	162.7 a	100	100

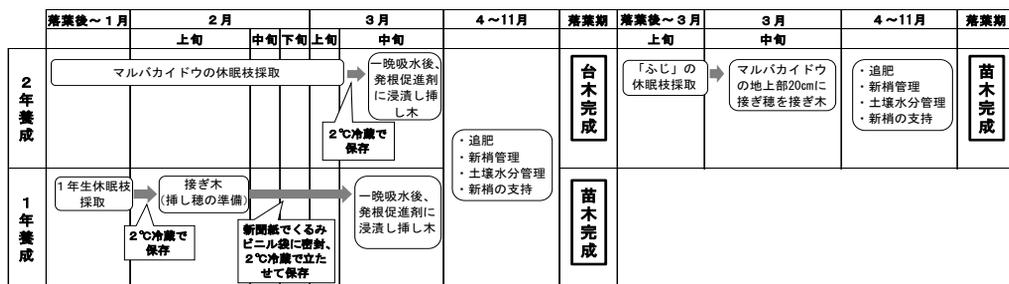
※2年養成はマルバカイドウを挿し木後「ふじ」を地上部20cmに接ぎ木した。

<sup>2</sup>供試した苗のうち2022年2月時点で新梢長100cm以上の苗木の割合

<sup>y</sup>Tukey-Kramer法により、異なる文字間で有意差有り



図1 1年養成した苗



※追肥（6月）：尿素をN成分1kg/aで水に溶かしかん注する。生育不良の場合は6~8月に月1回の追肥（N成分1kg/a）を行う。

新梢管理（6月下旬）：複数発生した新梢のうち、最も伸長の良い1本を残し切除する。

土壌水分管理（随時）：pFメータを設置（深さ10cm）し、pF2.0を下回らないよう適宜かん水する。

新梢の支持（随時）：新梢伸長に応じフラワーネットを引き上げる。

図2 苗木育成の流れ

### 3. 成果の活用・留意点

- ・台木に使うマルバカイドウは、2年養成では基部径0.5~2.0cm、1年養成では基部径0.7~2.0cmの休眠枝を用い、長さ20cmに調整しましょう。
- ・いずれの方法も挿し木時期は3月中旬とし、接ぎ木は2年養成法では3月中旬、接ぎ木挿し法では2月上旬（挿し木40~50日前）に行いましょう。
- ・種苗法の一部を改正する法律の施行により、令和4年4月1日より一部品種は自家増殖（苗木の生産、高接ぎ等）に際し、育成者権者の許諾を必要とする場合があるため、最新情報を確認しましょう。
- ・品種により適応性が異なる場合があります。接ぎ木挿し法においては「ふじ」と比べ、「紅みのり」、「秋映」および「錦秋」では同程度、「こうたろう」では生育がやや劣ることを確認しています。